

稲作だより

第 4 号

本田初期編

令和3年5月7日発行

山形おいしさ際立つ！米づくりプロジェクト

最上地域本部

最上総合支庁農業技術普及課

Tel 29-1329（稲作担当）

耕起作業は平年より早く、順調に進んでいます！

田植えは好天の日を選んで、3cm程度の浅植えを！

< 本田初期における作業・管理のポイント >

～活着を促進させ、初期生育(茎数)を確保しましょう！～

1 「田植え日和」を選んで適期の田植えを心掛けましょう！

低温や強風の日に田植えを行うと苗が植え傷みを起こし、活着や初期生育の遅れにつながります。2～3日程度好天が見込まれる日を選んで田植えを行いましょう。

2 植付深3cm程度の浅植えを徹底！

深植えは、大きな穂をつける初期の分けつの発生を抑制するので、3cm程度の浅植えを毎年確認しましょう。

栽植密度70株/坪、植込本数

4～5本/株を基本とし、田植え時期が遅れる場合や用水の温度が低い圃場では、植込本数をやや多くしましょう。

あまり気にしていなかったが
今後確認 36%

3cm程度の浅植えを
毎年確認している
64%

令和3年産「つや姫」栽培自己研修
チェックシート集計（最上地域）

3 初期生育確保に向けた水管理の徹底を！

田植え後は水深を4～5cmとし、稲体を保護し活着を促進します。

活着後は、分けつの発生を促進するため日中2～3cmの止め水とし、浅水管理に切り換えます。ただし、低温や強風時には深水管理を行い、稲体の保護に努めましょう。

土壌還元（ワキ）対策には、積極的な水交換・夜間落水・田干しを!!

5月19日頃発行の第5号「本田初期水管理編」にて、詳しく解説します。

4 病害虫防除

(1) 箱施用剤の使用方法

苗床（ハウス内等）での箱施用剤の使用は、薬剤の種類によっては農薬成分が野菜等の後作物に影響する恐れがあります。育苗後の苗床で野菜等を栽培する場合は、苗床（ハウス内等）での箱施用剤の使用は避け、田植え直前に畦畔等で行いましょう。

(2) 葉いもち対策

箱施用剤の入れ忘れによる葉いもちの発生が見られます。地域全体の発生源とならないよう、計画した剤は適切な時期に施用しましょう。また、補植は田植え後1週間程度を目安に終了し、補植作業後に余った苗は速やかに処分しましょう。



葉いもち

5 雑草防除

効果的な雑草防除を行うためには、各圃場の雑草発生状況（雑草の種類や葉齢等）を把握して適切な薬剤を選択することが重要です。また、除草剤の効果を最大限発揮させるためには、適期散布と適切な水管理が重要です。

(1) 散布時期

雑草の発生状況を確認し、登録の範囲内で早めに散布を行います。雑草の葉齢は全般にイネよりも進みが早いため、除草剤の散布が遅れると残草が多くなるため注意が必要です。令和2年は5月下旬～6月上旬に高温となり、急激に雑草の葉齢が進みました。気温と雑草の葉齢に注意しましょう。

(2) 水管理

除草剤散布の際には3～5 cm程度の水深を確保し、しっかり水尻を止め、漏水を防ぎましょう。除草剤の効果を最大限引き出すため、散布後1週間は止水管理としましょう。

*** 薬害とドリフト防止のため、強風時の除草剤散布は控えましょう。**

NOコンタミ！ 田植え時には品種の取り違えに注意！ 品種確認の徹底を！

農薬適正使用 使用時にはラベルを確認！ 使用量や時期を厳守しましょう！

いよいよ田植え作業が始まります！ 農作業はあせらず、きもまず！ 点検時は必ずエンジンを止めましょう！

「山形県農作業事故防止啓発運動～春季運動強化期間(4月10日～6月10日)」